

# 多摩支部会報第 65 号

新年号 (2025 年 1 月 1 日発行)



山の上ホテル

## 年頭のご挨拶



多摩支部長 土屋栄一

多摩支部校友の皆様、新年あけましておめでとうございます。日頃より校友会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、多摩支部のスローガン「明治はひとつ、3Cで繋ごう多摩支部の絆」のもと、活発な活動が行われました。「21 地域支部を知ろう！写真でスタンプラリー」では、6月に江戸から昭和の名残を色濃く残す町・青梅の市街地を、11月には、新選組のふるさと日野において、その息吹を感じながらの甲州街道旧跡めぐりを、地域支部校友の皆様にご案内頂きました。

また、スポーツ観戦においては、結果は別として、箱根駅伝予選会、六大学野球そしてラグビー対抗戦での対早稲田戦では、今までにない数の地域支部そして校友の皆様に参加頂きました。少しずつではありますが、校友の皆様同士の絆が深まりつつあると感じているのは、私だけではないと思います。

2025 年は、巳年、「成長」や「変革」の年と言われています。固定観念にとらわれず、新しい考え方や方法を積極的に取り入れ、校友会員相互の一層のコミュニケーションの活性化と一緒に取り組んでまいりましょう。

今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

6 月 16 日

スタンプラリー青梅



10 月 19 日箱根駅伝予選会



12 月 1 日 ラグビー明早戦



Google Earth

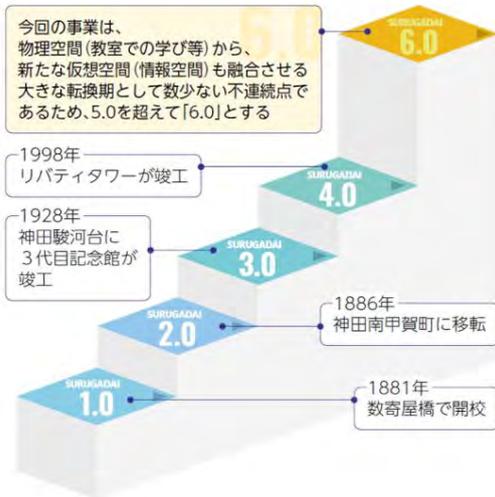
# SURUGADAI 6.0

駿河台から世界へ。学びと研究の未来を創る。



明治大学創立 150 周年記念事業の一環として駿河台キャンパス総合施設整備計画「SURUGADAI6.0」が始動～中野キャンパスの全機関が 10 年後に駿河台キャンパスに統合～

今回の事業は、物理空間（教室での学び等）から、新たな仮想空間（情報空間）も融合させる大きな転換期として数少ない不連続点であるため、5.0を超えて「6.0」とする



## ポイント

- 創立 150 周年事業の主軸となる大規模施設整備計画「SURUGADAI6.0」
- コンセプトは「物理空間と仮想空間を融合させた新しいキャンパスを創る」
- 約 10 年後に中野キャンパスの全機関が駿河台キャンパスに統合

## 経緯・詳細

本計画は、2031 年の本学創立 150 周年に向けて明治大学のあるべき姿を定めた「MEIJI VISION 150・前へ」における施設整備計画の重点目標として位置付けています。駿河台キャンパスの猿楽町地区（旧付属明治中学・高等学校跡地）にある多数の老朽化した校舎を中心に、駿河台キャンパス全体に及ぶ施設の建て替えと改修を工事開始年度から 14 年の期間をかけて行う長期的な施設整備事業です。

本計画の検討にあたっては、将来どのような駿河台キャンパスにすべきかというコンセプト「SURUGADAI6.0」を策定しました。このコンセプトは、「物理空間と仮想空間を融合させた新しいキャンパスを創る」ことを謳っており、学生・教職員のみならず、世界の人々と障壁なくつながり、知の創造が一段と広がる教育研究の場（空間）を創造することを目指しています。

そして、本計画は、現在中野キャンパスに配置されている全機関が約 10 年後に駿河台キャンパスに統合されることを前提とした計画です。これは、「SURUGADAI6.0」を実現するためには、中野キャンパスの教育研究力を、駿河台キャンパスの諸機関と連携させることが必要であるとの考え方によるものです。この統合により、教育研究の多分野の融合が促進され、より学際的で先進的な教育研究が駿河台キャンパスで展開されることとなります。なお、統合した後の中野キャンパスの利用については、社会における大学へのニーズなども考慮して理事会においてこれから検討することとなります。

## 今後の展望

「SURUGADAI6.0」により生まれ変わる新たな駿河台キャンパスでは、現在、中野キャンパスと駿河台キャンパスに配置されている全機関が共有する新教育棟、新研究棟の建設をはじめ、学生課外活動の場となる学生センターの建設、その他の既存校舎の改修を施した上での諸機関の配置変更など、大規模な建設移転計画が予定されております。このように本計画は、本学のキャンパスの設置機関の編成において大きな転換を図る計画であり、駿河台キャンパスの次世代の発展を見据えた整備事業です。

## 1. 期待を前へ

中野キャンパスに現在展開しているすべての機関を、10年後を目標に駿河台キャンパスへ統合します。

## 2. 創造を前へ

中野キャンパスの教育研究力と駿河台キャンパスの総合力により、知の創造をさらに押し広げます。

## 3. 時代を前へ

幅広い分野の融合が促進されることで、今までにない学際的かつ先進的な教育研究の場が誕生します。



(2024年 12月 16日  
明治大学プレスリリースより転載)

## ～新選組のふるさと日野～甲州街道の宿場町を歩こう～

今回は、ご家族や友人を含め、7地域支部 18名（国立・町田・あきる野・日野・東久米・小平・国分寺）の皆様にご参加頂きました。11月17日（日）13時、JR日野駅に集合、八坂神社、日野宿交流館、日野宿本陣を経て、佐藤彦五郎新選組資料館、土方歳三資料館、土方歳三のお墓がある石田寺（せきでんじ）と回って、16時20分頃、モノレール万願寺駅で、お土産の高幡饅頭を2個ずつ配って終了しました。その後、有志9名は、高幡不動の居酒屋に移動、喉を潤して解散しました。

私が印象に残った場所をご紹介させていただきますと、まず、「八坂神社」には、「天然理心流奉納額」があり、例大祭等の特別な日以外は非公開ですが、今回は、小川日野地域支部長のお口添えで、特別に、本殿に立ち入りを許され、八坂神社の方による解説付きで拝見することが出来ました。この「奉納額」は、嶋崎（近藤）勇、沖田惣次郎（総司）、佐藤彦五郎や井上松五郎・源三郎など日野宿の天然理心流門人23人が安政5年

（1858年）に奉納したとされる貴重なものです。次に、「日野宿本陣」は、築160年の都内唯一の現存する本陣建築物で、新選組のメンバーも訪れた場所です。「佐藤彦五郎新選組資料館」と「土方歳三資料館」は、開館日が月に2日だけ、また開館時間も4時間という施設で、当日訪問できたことは、貴重な機会でした。特に、「土方歳三資料館」は参加者から「ここに来たかったんですよ」というお声を頂き、とても有り難い思いでした。当日は、晴天、最高気温24℃程度と歩くには、汗ばむほどでしたが、佐藤彦五郎新選組資料館から土方歳三資料館への約30分間の比較的長い距離を含め、石田寺を巡って、万願寺駅に至るまで、皆様笑顔で完走、お疲れ様でした。最後に、このスタンプラリーの開催にあたり、日野地域支部の皆様には、多大なご協力を頂き、厚く感謝申し上げます。

次回は、あきる野地域支部にお願いする予定です。（下記写真：左側；「日野宿本陣」前で、右側；「土方歳三資料館」前で）



# 師走の風物詩が思い出の彼方に～

主催：国立地域支部

共催：国分寺地域支部

## 収穫祭をもって終演に



1996年（平成8年）11月17日（日）にスタートした国立地域支部の「大餅つき大会」が、2024年（令和6年）12月15日（日）をもって、28年の歴史に終わりを告げることになりました。国分寺地域支部との共催、近隣地域支部の皆さんへのお誘い、そして2015年（平成27年）からは、明大祭実行委員会の現役学生・明大相撲部員の応援も加わり、まさに「明治はひとつ!」とも言える一大イベントになりました。2016年12月18日（日）には、総勢93名、最多の参加がありました。

雲ひとつない空の下、一面、菜の花が咲き乱れる「国立・城山さとのいえ」、そこには、餅つきの杵の音が響きわたり、搗き立ての絡み餅を頬張る多くの姿がありました。28年に亘るこの活動を支えていただいた、沼尻さん、沼崎さん、柳澤さんはじめ国立地域支部の皆さん、国分寺地域支部の皆さん、そして応援くださいました明治大学の現役の学生さん、加えてご参加頂きました近隣地域支部の皆さんに改めて、感謝申し上げます。この活動が、皆さんの思い出の片隅に残り続けることを願って、「ありがとうございます」と記します。なお、最後の活動になりました12月15日（日）の「収穫祭」には、6地域支部（国立、国分寺、小平、日野、多摩市、あきる野）の皆さん、明大祭実行委員会の現役学生6名の総勢36名の皆さんにご参加頂きました。



記・写真：佐々木一郎



### 教養と教育の人生

沼尻 哲 (国立地域支部 昭46・商)



私の人生を支える大切なキーワード、それは**教養**（きょう用がある）と**教育**（きょう行くところがある）です。突然でしたが、母の介護、妻の認知機能低下が重なり、早期退職にて対応、新しい生活がスタートした。折角の機会なので、

**国立市主催のシニアカレッジ二期生に入学した。**

（シニアカレッジとは、半年間、15人程度のゼミ形式で、高齢者に対する知識・介護・サポート等を学ぶ市民大学そのもので、今年で開校8年目になる。）ほどなく、妻も施設入居となり、我が家は父子家庭になるので、一発発起し、**私の趣味「男の料理」を延長させ、66歳で「調理師免許」を取得しました。**それまで月・水・金の週三日、朝から晩まで施設に入り浸っていましたが、コロナ禍に入り、面会禁止・リモート面会等で、行く用・行くところが急になってしまいました。今は、家族のみ週1回、30分、居室面会を実施中。

逡巡な日々を過ごしていた時、シニアカレッジOBが集う**くらしのサポート**（注）に出逢い、参画しました。自然体で「いま出来ることを、出来る範囲でいまやろう」と云う信条に照らしたものは、このグループで、**総務を担当し、利用者とサポーターの連携・マッチングを行ったり、報・連・相等を担っています。**また、いちサポーターとして、**要支援1の独居の男性の訪問調理を週2日担当しています。**11月に入り、延べ210回を超え、「今日は何を作ろう」「材料はどこで何をどれくらい購入しようか」「今度の献立は」「すずらんの宅配弁当とパントリーがないか」。これが大変でもあり、楽しくもありです。目の前の為すべきこと。ここで、キーワードの「教養と教育」が出てくるのです。そのためには、自身の体力・気力が必須。コンディションづくり。これも副産物の賜物です。これまで好評だったものは、①鰻重、②かつ丼、③冷やし中華、

④穴子の握り、⑤手作りなます等で、手作り、手をかけるにこだわっています。毎回訪問すると、リビングのテレビがいつもついてます。料理は勿論ですが、話し相手・聞き役も重要なものです。この方は、最愛の高校同級生の奥様に先立たれ、全く手足が地に付かない状態から4年、ご子息は、お体が悪く就労が出来ず、逗子の一人住まい。生活、仕送りの負担等々。私以上に問題山積みです。様々なクエストがあります。また、82歳となり、今日のこと・明日のこと・明後日のこと、お話しもどんどん広がり、時間の経つのもアツという間。目線を合わせ、無理のないところで①調べてきたり、②紹介したり等対応しています。国立在住60年（私とほぼ同じ）が私たちの共通点、国立駅・お店の今昔・グルメ店の想い出と、こちらの話も次から次へです。出来る限り寄り添い続けたいと思っています。こんなことから、**令和4年度から、国立市在宅療養推進連絡会の生活支援推進検討委員会のメンバーとして、要請を受け、市民の立場で12人のひとりとして参画中。教養と教育は、人生の宝物。大先輩の笑顔、いつも元気を貰っています。**

（注）

「くらしのサポート」とは、国立市地域包括支援センターと協力して、2021年設立、高齢者を地域で支え、利用者が自立した生活を営むための支援を担う。対象は、要支援1、2。サポート内容は、①家事サポート（掃除・洗濯・調理・買い物代行・電球交換・ゴミ出し・話し相手）②見守り。身体介護は含まない。登録サポーター：44名（実質25名）、平均年齢73歳（利用者と紙一重）、現在、月200件以上の利用あり、ピーク状態が続いている。

～住民同士のちょっとした日常生活上のささえあい～  
**くらしのサポートのご利用案内**  
 「くらしのサポート」って何？  
 市の市民生活の支援を目的として、（以下利用対象とします）  
 高齢者のサービス利用やボランティア活動も促進し、社会参加の  
 機会を創出する。また、生活の悩みを解消し、生活の質を向上させる  
 こと、市民同士の連携を促進することです。

● 相談支援を提供すると、  
 地域包括支援センターと協働して、利用者とサポーターを  
 マッチングさせ、必要なサービスを提供し、生活の質を向上  
 させ、暮らしを豊かにするための活動を行います。

● 利用対象となるには  
 利用者が自立した生活を営むための支援を必要とする方です。

● 要支援1とは  
 日常生活が自立しているが、家事や買い物などの支援が必要となる方です。

● 要支援2とは  
 日常生活が自立しているが、家事や買い物などの支援が必要となる方です。

● 要介護1とは  
 日常生活が自立しているが、家事や買い物などの支援が必要となる方です。

● 要介護2とは  
 日常生活が自立しているが、家事や買い物などの支援が必要となる方です。

● 要介護3とは  
 日常生活が自立しているが、家事や買い物などの支援が必要となる方です。

● 要介護4とは  
 日常生活が自立しているが、家事や買い物などの支援が必要となる方です。

● 要介護5とは  
 日常生活が自立しているが、家事や買い物などの支援が必要となる方です。

「古いピアノの鍵盤焼」

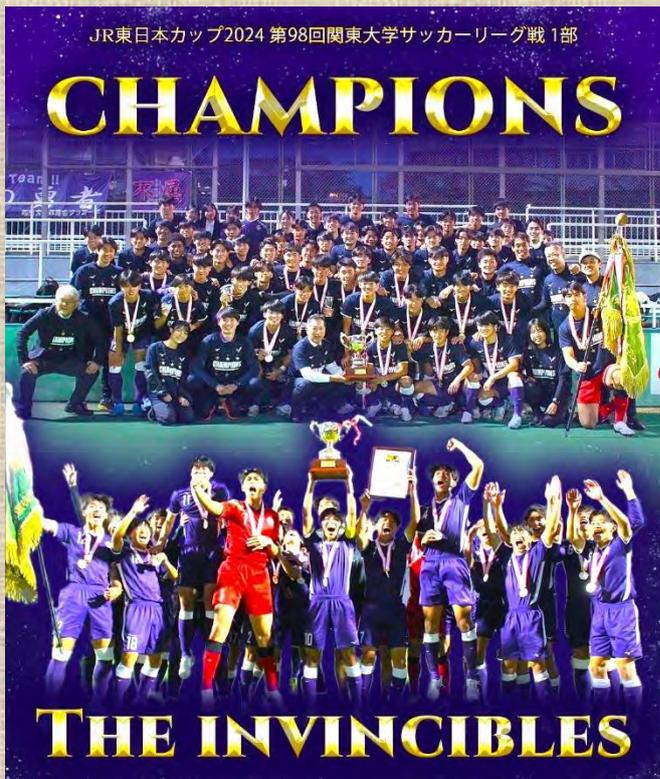
沼尻創作料理



「かつ丼」

# 明大サッカー部、史上初無敗で2年ぶり8度

## 目のリーグ優勝・第98回関東大学サッカーリーグ戦1部



明治大学体育会サッカー部は、11月17日(日)味の素フィールド西が丘で開催された関東大学サッカーリーグ戦1部最終節で、流通経済大学に勝利し、リーグ戦史上初となる22試合無敗(15勝7分)で優勝を果たし、2年振り8回目の優勝を達成した。

## 第73回日本スポーツ賞で優秀選手・団体に選出

昨年7月～8月のパリ五輪など国内外の主要なスポーツ大会で輝かしい成績を残し、各競技団体から推薦された、第73回日本スポーツ賞の優秀選手29人、優秀団体21チームが選出された。その中で、明治大学出身者の野畑美咲選手(3年・商)、パリ五輪で92年振りのメダル獲得の馬術日本代表(大岩義明・1999年・商、戸本一真・2006年・商、北島隆三・2008年・政経)が選ばれた。



明治大学体育会射撃部の野畑美咲選手は、パリ五輪射撃日本代表として、混合10mエアライフル団体と女子10mエアライフル個人に出場した。惜しくも決勝進出を逃したが、「悔しい結果となりましたが、4年後のオリンピックに向けて頑張っています。」と2028年ロサンゼルスオリンピックに向け、更なる飛躍を誓った。



パリ五輪で、総合馬術団体に92年振りに銅メダルに輝いた、平均年齢41.5歳、愛称「初老ジャパン」。また、2024年に話題になった言葉に贈られる「現代用語の基礎知識2024ユーキャン新語・流行語大賞」にも選出されました。

「日本スポーツ賞」とは、読売新聞社・日本テレビ放送網が共催するスポーツ賞。1951年に制定され、1年間において顕著な活躍をした選手あるいは団体を表彰。単独のスポーツ賞では、日本で最も長い歴史をもつ。

関西王者倒し

正月越え

撮影・制作：井垣友希

ラグビー部 2024.12.22 Sun  
 全国大学選手権  
 明大 24-21 天理大

2025年1月2日(木) 全国大学選手権準決勝

明治大学対帝京大 (国立競技場)

2024 SEASON SLOGAN

奪還

全国大学選手権・準々決勝の相手は、関西王者・天理大。試合開始後は、自陣でのプレーが続いたが、明大が徐々に主導権を奪い返していく。前半は、天理大をノートライに抑えると、後半開始後も連続得点で点差を突き放した。試合終盤は、天理大に連続トライを許すも、逃げ切った明大が、最終スコア 24対21で2年連続の準決勝進出を決めた。主将のNo8 木戸は、「明治だからこそ、モールで取りたい気持ちが強かった」と伝統のFWに対する誇りをにじませた。この1年、一体となって動くモールを追求。モールへの防御を得意とする天理大にも「通用する自信はあった」と話す。「FWは拘って作ってきた。(評価が高い) BKと互いに支え合う理想的な形になってきた」と神鳥監督。

最高の状態で、前回王者へ挑む。(データ：明スポ、読売新聞)

今までも、そしてこれからも。  
明治の今を追い続ける。

# 明大スポーツ 新聞部



公式Instagram

@meisupo\_photo

公式X(旧Twitter)

@meisupo

公式  
YouTube  
⇒ ⇒ ⇒



こちらから！  
定期購読は



## 明治大学校友会 多摩支部の皆様へ

### 明大スポーツ新聞部を 応援してください

